4-590-342-**01** (1)

SONY

UHF シンセサイザー トランスミッター

取扱説明書

UTX-B03HR

目次

特長

UHF シンセサイザートランスミッター UTX-B03HR は、信頼性の高い SMC9-4S 端子を採用した B 型規格のボディーパックトランスミッターです。

信頼と実績のある SMC9-4S（凹）端子を採用

放送用途で高い実績のあるソニー製ラベリアマイクロホン ECM-77BC を使用可能です。

コンパンダーをデジタル処理

DSP を搭載し、デジタルコンパンダー処理によって高音質な伝送を実現。モードを切り換えることにより、ソニー製アナログワイヤレスマイクロホンシステム（UWP-D シリーズ、UWP シリーズ、WRR シリーズ）の受信機と組み合わせて使用できます。

LINE 入力を装備

MIC/LINE を切り換えることで、さまざまなオーディオ機器からの入力に対応します。

位相切り換え機能

位相切り換え機能により、逆相のマイクロホンにも対応します。

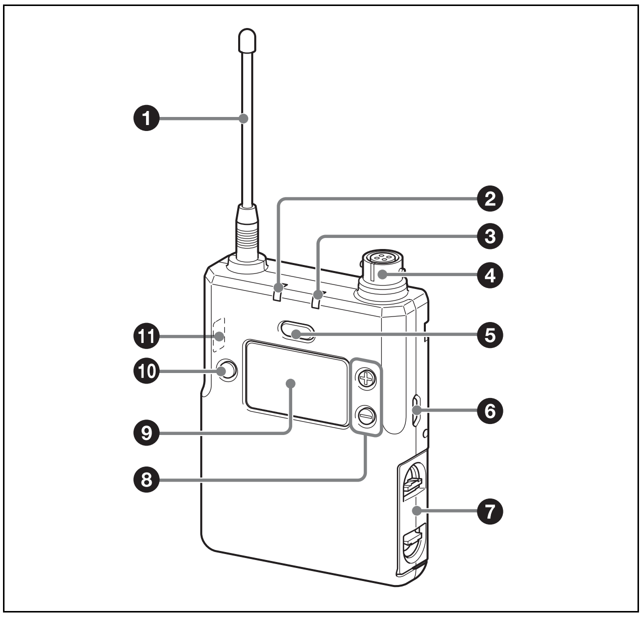
赤外線通信機能の採用

UWP-D シリーズの受信機で設定した周波数とコンパンダーモードを赤外線通信機能で受信できるため、短時間でチャンネル設定が完了します。

豊富な電源運用

アルカリ乾電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池の 3 種類の電池が使用できます。また、USB 給電による運用も可能です。
ニッケル水素充電池を使用する場合は、本機に装着したまま市販の USB ポータブル電源から充電することもできます。

各部の名称と働き



❶ アンテナ

❷ POWER（電源）インジケーター

電池残量、または充電状態を表示します。

インジケーターの表示	状態
点灯（緑）	電池残量が充分
点滅（緑）	電池がほとんど消耗している
点灯（橙）	充電中（ニッケル水素充電池を装着し、本機が電源 OFF の場合のみ）
消灯	電源 OFF または充電完了

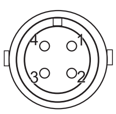
❸ AUDIO（音声入力レベル）インジケーター

音声入力のレベルによって、以下のように点灯／消灯します。

点灯（赤）：音声レベルが高すぎます。音声にひずみが生じる場合は、アッテネーターレベルを調整して入力レベルを下げてください（11 ページ）。
点灯（緑）：適正な音声入力レベルです。
消灯：音声入力がないか、レベルが低すぎます。
点滅（橙）：音声がミューティング（消音）されています。

❹ 音声入力端子（SMC9-4S（凹）タイプ）

ソニー製ラベリアマイクロホン ECM-77BC を接続します。また、マイクロホンケーブル EC-1.5CF（別売）を使用すると他のマイクロホンを接続できます。



ご注意

オーディオ入力レベルを「MIC」に設定して使用するときには、音声入力端子にはラベリアマイクロホンの電源用に電圧がかかります。ラベリアマイクロホン以外の機器を接続する場合には、必ずマイクロホンケーブル EC-1.5CF（別売）を使用してください。

❺ POWER/MUTING（電源／消音）ボタン

本機の電源を ON/OFF します。また、ミューティング（消音）機能の ON/OFF もこのボタンで操作します。

機能	操作
電源 ON	ボタンを 1 秒以上長押し
電源 OFF	表示が消えるまでボタンを長押し
ミューティング ON	ボタンを押す
ミューティング OFF	

❻ USB 端子（マイクロ B タイプ）

市販の USB ポータブル電源を接続します。
本機の電源が ON のときに USB ポータブル電源を接続すると、自動的に USB ポータブル電源から電源を供給して動作します。本機の電源が OFF で、ニッケル水素充電池を装着しているときに USB ポータブル電源を接続すると、USB ポータブル電源からニッケル水素充電池を充電します。

ご注意

アルカリ乾電池、リチウム電池を充電することはできません。

❼ 電池ホルダー

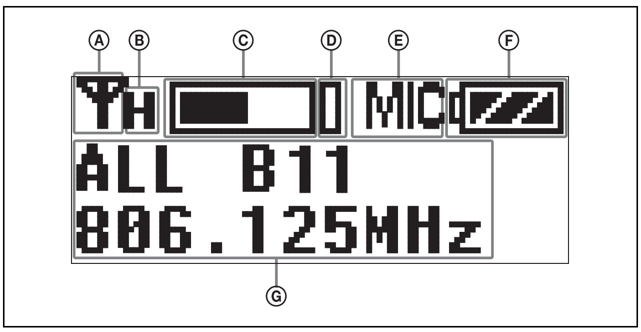
単 3 形電池（アルカリ乾電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池）2 本を入れます。

◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電源」（5 ページ）をご覧ください。

❽ ＋または－ボタン

ディスプレイに表示された機能や値を選択します。

❾ ディスプレイ部



Ⓐ RF 送信表示

現在の送信状態を表示します。

- 𝚈 ：送信しています。
- － ：RF 送信を停止しています。

Ⓑ RF 送信電力表示

現在の送信電力設定を表示します。この設定は RF 送信電力設定機能で変更できます。

◆ RF 送信電力設定機能について詳しくは、「送信出力のレベルを設定する（RF POWER）」（10 ページ）をご覧ください。

Ⓒ オーディオ入力レベルメーター

音声入力レベルを表示します。

Ⓓ ピークインジケーター

オーディオ信号がひずみはじめる 3 dB 前で点灯し、過大入力を警告します。

Ⓔ 入力レベル表示

入力レベル状態を表示します。
MIC：マイク入力です。
LINE：ライン入力です。

Ⓕ 電池残量表示

電池の残量を表示します。USB 端子から電源供給されている場合は、「EXT」と表示されます。

◆ 詳しくは、「電池残量の表示」（5 ページ）をご覧ください。

Ⓖ メニュー表示部

各種機能を表示します。表示を切り換えるには、＋または－ボタンを押します。

◆ 詳しくは、「設定メニュー」（10 ページ）をご覧ください。

❿ SET（セット）ボタン

ディスプレイに表示された機能を調整したり、調整した値を決定したりします。
SET ボタンを押しながら電源を ON にすると、電波を送信しない状態で電源 ON になります（送信停止モード）。

⓫ 赤外線受光部

受信機で設定した周波数およびコンパンダーモードを受信します。

電源

単３形電池２本（アルカリ乾電池、ニッケル水素充電池、リチウム電池）または USB 端子からの電源供給で動作します。単３形電池と USB 端子から同時に電源供給されている場合、USB 端子からの電源供給が優先されます。各機器の電池の入れかたと電池の残量表示について、また USB 端子からの電源供給について下記の項目で説明しています。

ご注意

マンガン乾電池を使用すると、充分な性能が得られませんので使用しないでください。

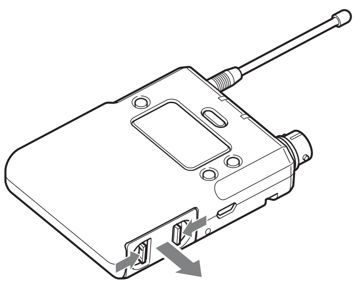
電池を入れる

ご注意

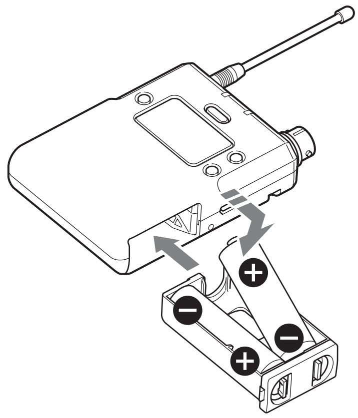
- 電池は必ず同じ種類の電池を使用してください。違う種類の電池や残量の異なる電池を組み合わせて使用しないでください。
- 使用中に電池の交換を行うと、大きな雑音が発生します。電池の交換は、必ず電源を切ってから行ってください。

1 POWER/MUTING（電源／消音）ボタンを長押しして、電源を切る。

2 ２つの取っ手をつまんで同時に中央に寄せながら、電池ホルダーを引き出す。



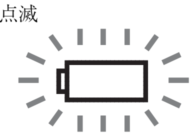
3 新しい単３形電池２本の⊕と⊖を確認して入れ、電池ホルダーを戻す。



電池ホルダーが本体にしっかりロックされていることを確認してください。

電池残量の表示

POWER ボタンを１秒以上長押しして ON にすると、ディスプレイ部に本機の電池残量が表示されます。
下記の表の５のように表示が点滅しはじめたら、直ちに電池を２本とも新しいものと交換してください。新しいアルカリ乾電池を使用する場合は、記載されている使用推奨期限を確認のうえ使用してください。

	電池残量表示	電池の状態
1	点灯 	良好
2	点灯 	残量 70% 以下
3	点灯 	残量 40%以下
4	点灯 	残量 20%以下
5	点滅 	ほとんど消耗している

ご注意

- BATTERY 機能で TYPE1 を選択した場合、新品のソニーアルカリ単３形乾電池を基準に電池の残量表示をします。その他の種類の電池や他社製の乾電池、新しくない乾電池などでは正しく残量表示ができないことがあります。アルカリ単３形乾電池以外の電池をご使用の場合には、BATTERY 機能で電池の種類を選択してください。
- 長時間続けてお使いになるときは、新しい乾電池と交換することをおすすめします。

◆ BATTERY 機能の設定について詳しくは、「電池の種類を設定する（BATTERY）」（12 ページ）をご覧ください。

電池についてのご注意

電池の使い方を誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。
- ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
- 電池を交換するときには、必ず2本とも新しい電池と交換してください。
- 新しい電池と使用した電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は充電できません。
- 本機を長時間使わないときは、電池を取り出しておいてください。万一、液漏れが起こったときは、ソニーのサービス窓口にお持ちください。

USB端子から電源供給する

本機は、USB端子に市販のUSB出力タイプのACアダプターやポータブル電源を接続して動作させることができます。
USB出力タイプのACアダプターやポータブル電源を接続して給電する場合は、以下の条件のものを使用してください。
- 出力端子形状：USBマイクロBタイプ
- 定格電圧：5 V
- 出力電流：200 mA以上

USB端子から電源が供給されている場合は、ディスプレイ部に「EXT」アイコンが表示されます。

ご注意

接続するACアダプターやポータブル電源によっては、音声にノイズが発生することがあります。その場合は、本機やラベリアマイクロホンをACアダプターやポータブル電源から離すなど、位置を変更することでノイズが軽減されます。

ニッケル水素充電池を充電する

本機に装着したニッケル水素充電池を充電することができます。
ニッケル水素充電池を充電するときは、本機の電源をOFFにして、USB端子に市販のUSB出力タイプのACアダプターやポータブル電源を接続します。
充電中はPOWERインジケーターが橙色に点灯します。充電が完了すると、POWERインジケーターが消灯します。
USB出力タイプのACアダプターやポータブル電源を接続して充電する場合は、以下の条件のものを使用してください。
- 出力端子形状：USBマイクロBタイプ
- 定格電圧：5 V
- 出力電流：1 A以上

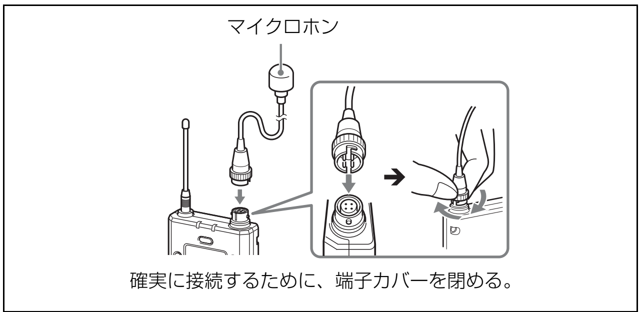
ご注意

- 充電のために接続するACアダプターやポータブル電源、コンピューターによっては、充電できないことがあります。
- 送信機または受信機の電源がONになっている場合は、ニッケル水素充電池は充電されません。

準備

ラベリアマイクロホンを取り付ける

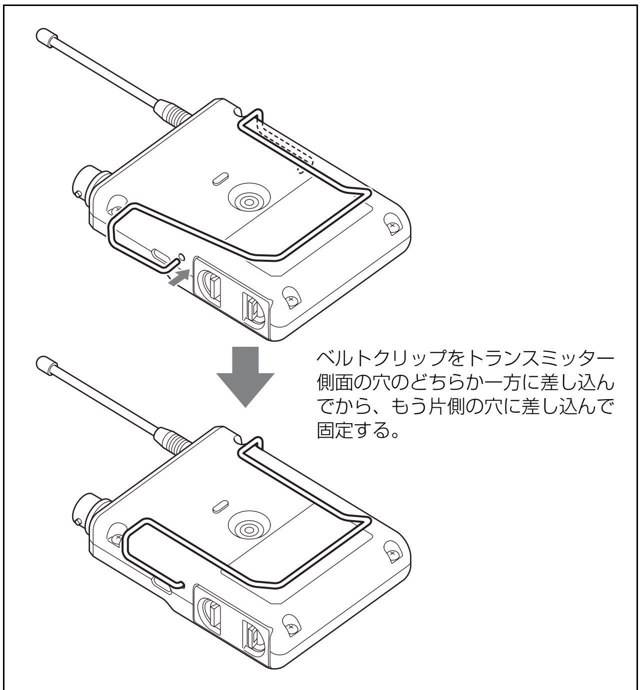
ソニー製ラベリアマイクロホン ECM-77BC を取り付けます。



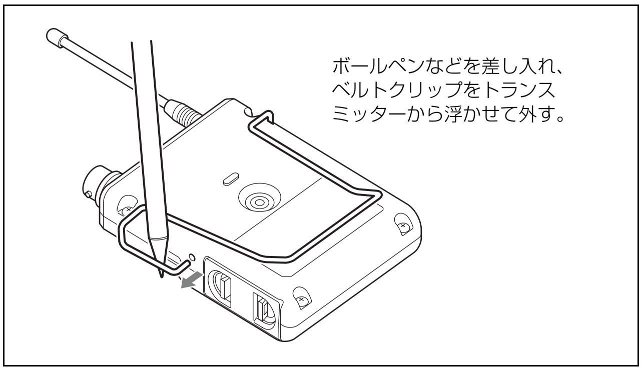
ご注意

マイクロホンの接続／取り外しは、トランスミッターの電源を切ってから行ってください。

ベルトクリップを取り付ける



ベルトクリップを外すには



設定

送信チャンネルを設定する

選択可能なチャンネルグループとチャンネルについては、CD-ROM に収録されている「周波数リスト」を参照してください。

ご注意

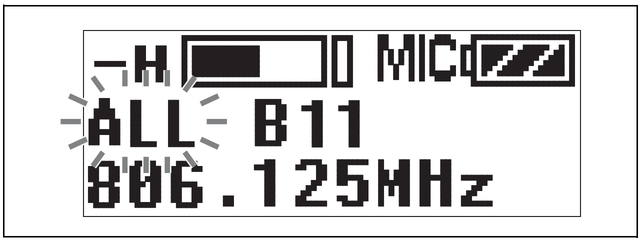
混信や雑音を防ぐため、次の点にご注意ください。
- 同じチャンネルに設定した複数台の送信機を同時に使用しないでください。
- 同時に 2 波以上を使用する場合は、必ず同一グループ内の異なるチャンネルに設定してください。
- 送信機および受信機をそれぞれ3 m以上離して使用してください。

1 SETボタンを押しながらPOWER/MUTINGボタンを長押しし、電源を ON にする。

2 ＋または－ボタンを使って GP/CH メニューを表示させる。

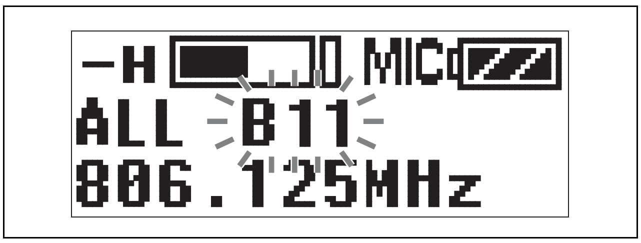
3 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

チャンネルグループ表示が点滅するまで長押ししてください。



4 ＋または－ボタンを押して、希望のグループ名を選択し、SET ボタンを押す。

チャンネルグループが設定され、チャンネル番号表示が点滅します。



5 ＋または－ボタンを押して、希望のチャンネル番号を選択し、SET ボタンを押す。

点滅表示が終了し、希望のチャンネルに設定されます。

6 POWER/MUTINGボタンを長押しして電源をOFFにしたあと、再度 POWER/MUTING ボタンを長押しして電源を ON にする。

電波の送信が開始されます。

ご注意

- チャンネルグループ表示またはチャンネル番号表示の点滅中に、10 秒間どのボタンも押さないと、点滅時の設定値で保存されます。この動作は、他の項目を設定する場合も同じです。
- 周波数表示は、チャンネル番号に応じて表示が変わります。
- 設定中には、電池を抜かないでください。抜けてしまった場合は、電池を入れ直し、設定の手順を最初から行ってください。
- 同一システム内の送信機と受信機は同じチャンネルに設定してください。

コンパンダーモードを設定する

本機と組み合わせる受信機によって、コンパンダーモードを切り換える必要があります。

ご注意

- UWP-D シリーズの受信機と組み合わせて使う場合は、受信機のコンパンダーモードも同じ設定にしてください。
- コンパンダーモードの設定が異なる組み合わせで使用すると、トーン信号周波数が異なるため、音が出ません。
- コンパンダーモードはメニュー表示が拡張モードの場合に設定できます（9 ページ）。

1 ＋ボタンまたは－ボタンで、COMPANDER メニューを表示させる。

2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

選択項目が点滅します。

3 ＋ボタンまたは－ボタンで、コンパンダーモードを選択し、SET ボタンを押す。

選択したコンパンダーモードに設定されます。

UWP-D：ソニー UWP-D シリーズの受信機と組み合わせる場合に選択します。

UWP：ソニー UWP シリーズの受信機と組み合わせる場合に選択します。

WL800：ソニー WRR シリーズの受信機と組み合わせる場合に選択します。

受信機とコンパンダーモードの組み合わせ

使用する受信機に合ったコンパンダーモードに設定します。

ご注意

受信機とコンパンダーモードの設定の組み合わせが適切でない場合は、音が出ません。

受信機		本機のコンパンダーモード		
		UWP-D	UWP	WL800
UWP-D シリーズ（URX-P03、URX-S03D）	コンパンダーモード：UWP-D	○	×	×
	コンパンダーモード：UWP	×	○	×
	コンパンダーモード：WL800	×	×	○
UWP シリーズ（URX-P2、URX-M2）		×	○	×
WRR シリーズ（WRR-855S、WRR-862、WRR-860C など）		×	×	○

赤外線通信機能を使う

UWP-D シリーズの受信機と組み合わせて使用する場合は、赤外線通信機能を使って受信機から本機の周波数およびコンパンダーモードを設定できます。

ご注意

UWP シリーズおよび WRT シリーズの送信機との組み合わせでは、本機能は使用できません。

◆ 赤外線通信機能について詳しくは、UWP-D シリーズ受信機の取扱説明書をご覧ください。

メニューの表示と詳細設定

メニュー構成と操作方法

メニューの表示モードには 3 種類あり、用途に応じて使い分けることができます。

シンプルモード

音声の送信に必要な基本設定のみが表示されるモードです。MENU MODE（メニュー表示モード）を SIMPLE に設定すると、シンプルモードでの表示となります。

設定メニューの種類

- GP/CH（グループ／チャンネル）選択
- BAND（周波数帯域）選択（日本国内向けモデルおよび韓国向けモデルには、このメニューはありません）
- RF POWER（RF 送信出力レベル）選択
- ATT（アッテネーター）設定
- LCF（ローカットフィルター）設定
- IN LEVEL（オーディオ入力レベル）選択
- TIME（累積使用時間）表示
- MENU MODE（メニュー表示モード）設定

ご注意

以下の設定メニューは、送信中は変更できません。送信停止モードで設定してください。
- GP/CH（グループ／チャンネル）選択

また、以下の設定メニューは送信中は表示されず、変更できません。送信停止モードで設定してください。
- BAND（周波数帯域）選択（日本国内向けモデルおよび韓国向けモデルには、このメニューはありません）
- RF POWER（RF 送信出力レベル）選択

拡張モード

すべての設定メニューが表示されるモードです。
MENU MODE（メニュー表示モード）を ADVANCED に設定すると、拡張モードでの表示となります。

ご注意

シンプルモードで使用する場合でも、拡張モードで最後に設定した内容が反映されます。

設定メニューの種類

- GP/CH（グループ／チャンネル）選択
- BAND（周波数帯域）選択（日本国内向けモデルおよび韓国向けモデルには、このメニューはありません）
- RF POWER（RF 送信出力レベル）選択
- ATT（アッテネーター）設定
- LCF（ローカットフィルター）設定

• IN LEVEL（オーディオ入力レベル）選択
• TIME（累積使用時間）表示
• MENU MODE（メニュー表示モード）設定
• COMPANDER（コンパンダーモード）設定
• PWR LOCK（POWER ボタンロック）機能
• MUTING（ミューティング機能）設定
• PHASE（位相切り換え）設定
• BATTERY（電池の種類）設定
• CONTRAST（ディスプレイ文字コントラスト）設定
• RESET（工場出荷設定）機能
• VERSION（ソフトウェアバージョン）表示

ご注意

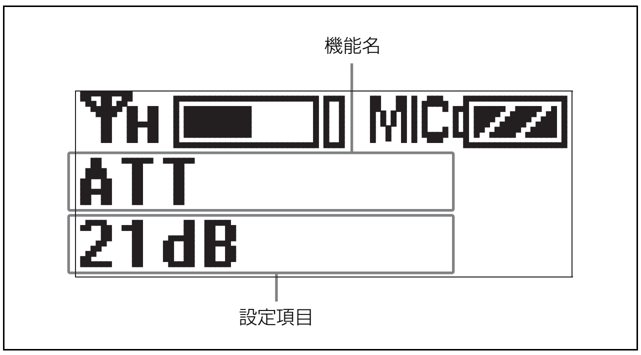
以下の設定メニューは、送信中は変更できません。送信停止モードで設定してください。
• GP/CH（グループ／チャンネル）選択
また、以下の設定メニューは送信中は表示されず、変更できません。送信停止モードで設定してください。
• BAND（周波数帯域）選択（日本国内向けモデルおよび韓国向けモデルには、このメニューはありません）
• RF POWER（RF 送信出力レベル）選択
• RESET（工場出荷設定）機能

送信停止モード

電波の送信を停止した状態で、設定を変更できるモードです。
チャンネル設定の際など、意図しない電波を発射して他の無線に妨害を与えないようにするには、このモードを使用します。
電源 OFF の状態から、SET ボタンを押しながら POWER/MUTING ボタンを 1 秒以上長押しして電源を ON にすると、送信停止モードでの表示となります。
以下の設定メニューは、送信停止モードでのみ変更できます。
• GP/CH（グループ／チャンネル）選択
• BAND（周波数帯域）選択（日本国内向けモデルおよび韓国向けモデルには、このメニューはありません）
• RF POWER（RF 送信出力レベル）選択
• RESET（工場出荷設定）機能

メニューの基本操作

メニューの基本的な操作は、シンプルモード、拡張モードおよび送信停止モードで共通です。



1 ＋または－ボタンを押して、設定したい機能画面を表示させる。

2 設定項目が点滅するまで SET ボタンを長押しする。

3 ＋または－ボタンを押して、設定を変更する。

4 SET ボタンを押して決定する。

ご注意

何も操作せずに 5 秒経過すると、バックライトが消灯します。何かボタンを押すと、再度バックライトが点灯します。

設定メニュー

ここでは、各機能と変更項目を説明します。
下線表記は工場出荷時の設定です。

グループ／チャンネルを選択する（GP/CH）

工場出荷時の設定は、お使いのモデルにより異なります。

◆ 詳しくは「送信チャンネルを設定する」（8 ページ）をご覧ください。

ご注意

この機能は、送信停止モード時のみ変更できます。

周波数帯域を選択する（BAND）

送信周波数帯域を選択します。

ご注意

• この機能は、送信停止モード時のみ変更できます。
• 日本国内向けモデルおよび韓国向けモデルには、このメニューはありません。これらのモデルでは、周波数帯域は選択できません。

◆ 各周波数帯域に含まれるグループとチャンネルについて、詳しくは CD-ROM に収録されている周波数リストをご覧ください。

送信出力のレベルを設定する（RF POWER）

送信する電波の強さを HIGH または LOW に設定します。それぞれの送信出力は、お使いのモデルによって異なります。

ご注意

この機能は、送信停止モード時のみ変更できます。

音声入力のアッテネーターレベルを調整する（ATT）

音声入力がひずまないように、アッテネーターレベルを3 dB刻みで設定できます。
工場出荷時の設定は、9 dBです。

ご注意

- IN LEVELをLINEに設定している場合は、「---」と表示され、アッテネーターレベルの設定はできません（0 dB固定）。
- アッテネーターレベルを大きくすると、雑音が増えることがあります。ラベリアマイクロホンを胸元に付けて使用する場合は、できるだけ0 dBに設定してください。

ローカットフィルターを設定する（LCF）

風による雑音を低減するため、ローカットフィルターを設定できます。
カットオフ周波数をOFF/LOW/MID/HIGHの4段階に設定できます。
OFF：フィルターなし
LOW：カットオフ周波数100 Hz
MID：カットオフ周波数150 Hz
HIGH：カットオフ周波数200 Hz

オーディオ入力レベルを切り換える（IN LEVEL）

オーディオ入力機器に応じて、入力レベルを設定します。MIC/LINEの切り換えが可能です。工場出荷時の設定は、MICです。

ご注意

オーディオミキサーなどからの音声の入力中に、この機能を「MIC」に切り換えないでください。過大なレベルの音声が入力されると、音声のひずみや再生・録音機器の故障の原因となることがあります。

累積使用時間を表示する（TIME）

使用時間の目安として、送信機の累積使用時間を表示します。
工場出荷時の設定は、00:00です。99:99まで表示が可能です。

時間表示をリセットするには

1 時間表示が点滅するまでSETボタンを長押しする。

2 －ボタンを押し、「00:00 CLR」が表示された状態でSETボタンを押す。

「00:00 CLR」が表示された状態で＋ボタンを押すと、時間表示が点滅します。この状態でSETボタンを押すと、累積使用時間のリセットがキャンセルされます。

メニュー表示モードを設定する（MENU MODE）

メニューの表示モードを設定します。
SIMPLE：基本的な設定のみが表示されるモードです。
ADVANCED：すべての設定が表示されるモードです。

コンパンダーモードを設定する（COMPANDER）

コンパンダーの動作モードを設定します。
UWP-D：UWP-Dシリーズ同士の組み合わせで使用できる、高音質モードです。
UWP：ソニーUWPシリーズの受信機と組み合わせて使用できるモードです。
WL800：ソニー800シリーズの受信機と組み合わせて使用できるモードです。

ご注意

- この機能は、拡張モード時のみ表示されます。
- コンパンダーモードの設定が異なる組み合わせで使用すると、トーン信号周波数が異なるため、音が出ません。

POWER/MUTINGボタンをロックする（PWR LOCK）

送信中に電源をOFFにしてしまうなどの誤操作を防ぐため、POWER/MUTINGボタンをロックすることができます。
UNLOCK：POWER/MUTINGボタンを長押しすると、電源のON/OFFができます。
LOCK：POWER/MUTINGボタンを長押ししても、電源のOFFができません。

ロック状態を解除するには

ロック状態を解除するにはPWR LOCKメニューでUNLOCKに設定するか、以下の操作を行ってください。

1 LOCKに設定された状態で、POWER/MUTINGボタンを長押しする。

ロック状態を解除するかを確認するメッセージが表示されます。

2 ＋または－ボタンを使ってYESを選択し、SETボタンを押す。

ロック状態が解除されます。

ご注意

- この機能は、拡張モード時のみ表示されます。
- 拡張モードでLOCKに設定し、その後シンプルモードに変更しても、POWER/MUTINGボタンのロック状態は変わりません。

- LOCK に設定された状態で電池を引き抜き、再度装着した場合には自動的に電源が ON になりますが、POWER/MUTING ボタンのロック状態は変わりません。

ミューティング動作を設定する（MUTING）

送信中に POWER/MUTING ボタンを押すと、消音状態となり受信機から音声を出力しないようにできます。
POWER/MUTING ボタンを再度押すと、音声が出力されます。
ENABLE：POWER/MUTING ボタンを押すとミューティングができます。
DISABLE：POWER/MUTING ボタンを押してもミューティングされません。

ご注意

- この機能は、拡張モード時のみ表示されます。
- ミューティング動作時、音声は出力されませんが電波は発射しています。

マイクロホンの位相を切り換える（PHASE）

接続するマイクロホンに応じて、位相を切り換えることができます。
NORMAL：位相を反転しません。
INVERT：送信機内部で位相を反転させます。EC-1.5CF を接続するときは、INVERT に設定します。

ご注意

この機能は、拡張モード時のみ表示されます。

電池の種類を設定する（BATTERY）

使用している電池の種類に合わせて設定しておくと、より正確に電池残量を表示できます。

TYPE1：アルカリ単 3 形乾電池をお使いになるときの推奨設定です。新品のソニーアルカリ単 3 形乾電池の特性を基準に残量を表示します。
TYPE2：充電式ニッケル水素電池をお使いになるときの推奨設定です。
TYPE3：リチウム電池をお使いになるときの推奨設定です。

ご注意

- この機能は、拡張モード時のみ表示されます。
- 電池の特性は、電池の種類や使用環境などによって変わります。ご使用になる電池の特性をあらかじめご理解のうえ、使用することをおすすめします。

表示の濃さを設定する（CONTRAST）

ディスプレイに表示されている文字やアイコンの濃さを、1 ～ 10 の範囲で調整できます。
設定できる値は以下のとおりです。
（淡）1 2 3 4 5 6 7 8 9 10（濃）

ご注意

この機能は、拡張モード時のみ表示されます。

工場出荷設定に戻す（RESET）

すべての設定を工場出荷時の設定に戻します。
SET ボタンを長押しすると、工場出荷設定に戻すことを確認するメッセージが表示されます。＋または－ボタンを押して YES を選択し、SET ボタンを押すと、送信機の設定が工場出荷設定に戻ります。

ご注意

- この機能は、送信停止モード時のみ使用できます。
- リセット時には、オーディオ入力レベルも工場出荷設定に戻ります。受信機に接続した機器やヘッドホンの音量が急激に変わることがありますので、充分にご注意ください。

ソフトウェアバージョンを表示する（VERSION）

送信機のソフトウェアバージョンを表示します。

ご注意

この機能は、拡張モード時のみ表示されます。

エラーメッセージ

ディスプレイ部には、通常表示の他に次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

表示	意味	対応
EEP ERROR	バックアップメモリーデータにエラーが発生しました。	お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。
PLL ERROR	PLL シンセサイザー回路に異常があります。	電源を入れ直してみてください。それでも直らないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。

故障かなと思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

症状	原因	対策
電源が入らない。	電池の ⊕ と ⊖ が逆になっている。	正しい方向に入れ直してください。
	電池が消耗している。	新しい乾電池に交換してください。
	電池端子が汚れている。	⊕ 端子、⊖ 端子を綿棒でクリーニングしてください。
電源が切れない。	POWER/MUTING ボタンがロックされている。	PWR LOCK メニューでロック状態を解除してください。
電池がすぐになくなる。	電池が消耗している。	新しい電池に交換してください。
	マンガン乾電池を使用している。	マンガン乾電池の持続時間はアルカリ乾電池に比較して半分以下になりますので、アルカリ乾電池を使用してください。
	寒い環境で使用している。	低温時は、電池寿命が短くなります。
チャンネルの変更ができない。	送信停止モードに入っていない。	いったん電源を OFF にして、SET ボタンを押しながら電源を ON にし、送信停止モードに変更してください。
音が出ない。	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
	送信機が電波を送信していないか、送信出力が小さい。	送信機の電源を確認してください。または、送信機と受信機の距離を近づけてください。
	送信機がライン入力に設定されている。	マイク入力に設定してください。
	送信機と受信機のコンパンダーモードが違っている。	送信機と受信機のコンパンダーモードを合わせてください。
	送信機がミューティング状態になっている。	送信機の POWER/MUTING ボタンを押して、ミューティング状態を解除してください。
音が小さい。	送信機のアッテネーターの設定値が大きい。	入力レベルが小さくなっています。送信機のアッテネーターを適正量に設定してください。
	アンプ、ミキサーのボリュームが下がっている。	ボリュームを上げて適正音量にしてください。
	送信機がライン入力に設定されている。	マイク入力に設定してください。
	送信機と受信機のコンパンダーモードが違っている。	送信機と受信機のコンパンダーモードを合わせてください。
音が歪む。	送信機のアッテネーターの設定値が小さい。または 0 である。	音量が過大入力です。音が歪まないように送信機のアッテネーターを設定してください。
	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
	送信機と受信機のコンパンダーモードが違っている。	送信機と受信機のコンパンダーモードを合わせてください。
音切れ、ノイズが発生する。	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
	2 本以上の送信機が同じチャンネルになっている。	同一チャンネルで 2 本以上の送信機は使用できません。付属の CD-ROM に収録されている周波数リストに従って各送信機のチャンネルを設定し直してください。
	チャンネルが同一グループ内の設定になっていない。	本機のチャンネルプランは、2 本以上の送信機を使用する場合、それぞれの送信機が混信しないように設定してあります。使用する送信機を同一グループ内のチャンネルに設定し直してください。
	近接チャンネルで運用している。	2 チャンネル（250 kHz）以上離れたチャンネルを使用してください。
赤外線送信で、送信機のチャンネルが設定できない。	送信機の赤外線受光部と、受信機の赤外線送信ポートが離れている。	送信機の赤外線受光部と受信機の赤外線送信ポートを約 20 cm 以内に近づけてください。
	他の機器で赤外線通信を行ったり、直射日光により妨害を受けている。	強い陽射しなどで妨害を受けると、通信距離が短くなることがあります。送信機と受信機をできるだけ近づけてください。

使用上のご注意

使用・保管場所

- UWP-D シリーズの機器を電力機器（回転機、変圧機、調光器など）に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。
- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、受信機のアンテナの位置や送信機の使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置で使用してください。
- UWP-D シリーズの機器を騒音の多い場所で使用すると、振動が直接本体に伝わり、雑音発生（マイクロホニック）の原因となり、規定の S/N を満足しない場合があります。影響を受けると考えられるものには次のようなものがありますので、充分に注意してください。
  - 回転機、変圧器などの付近
  - 空調機器より発生する騒音、または風を直接受ける場合
  - PA（Public Address）システムのスピーカー付近
  - スタジオなどに設置していて、スタジオの機器をぶつけたり、たたいたり、物を落としたりした場合

  対策として、影響を受ける条件からできるだけ離す、緩衝材を敷くなどしてください。

お手入れ

表面や端子部の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。シンナーやベンジン、アルコールなどの薬品類は、表面の仕上げを傷めますので使用しないでください。

電波干渉を防ぐために

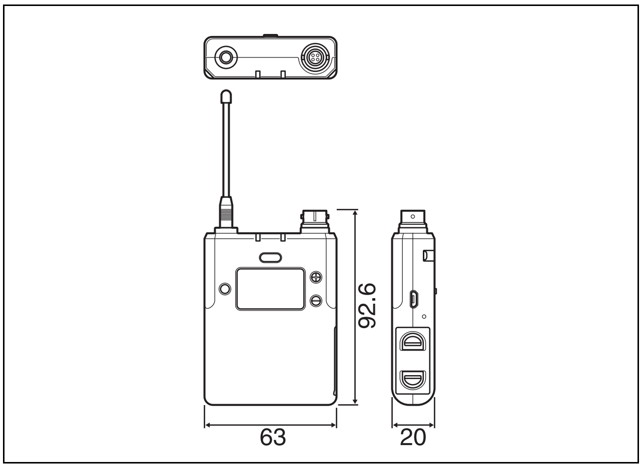
使用時に外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じることがあります。このような場合は、電波干渉を防ぐために電波の発射を停止する（電源を切る）か、あるいは周波数の変更（チャンネルの切り換え）を行ってください。

携帯通信機器による電磁波障害を防止するために

携帯電話などの通信機器を本機の近くで使用すると、誤動作を引き起こしたり、音声に影響を与えることがあります。本機の近くでは、携帯通信機器の電源はできるだけ切ってください。

主な仕様

アンテナ	波長 1/4 λ ワイヤーアンテナ
音声入力端子	SMC9-4S（凹）
基準音声入力レベル	− 60 dBV （MIC 入力、アッテネーター 0 dB）
周波数特性	40 Hz 〜 15 kHz
アッテネーター	0 dB 〜 27 dB（3 dB ステップ）
インジケーター	AUDIO、POWER/MUTING
発振方式	水晶制御 PLL シンセサイザー
搬送波周波数	806 MHz 〜 810 MHz
RF 出力レベル	10 mW/2 mW（選択可）
プリエンファシス	50 μs
基準周波数偏移	± 5 kHz（− 60 dBV、1 kHz 入力時）
ひずみ率	0.9% 未満（− 60 dBV、1 kHz 入力時）
S/N 比	60 dB 以上
音声遅延	0.35 ミリ秒
トーン信号周波数	コンパンダーモードを UWP-D に設定時：32.382 kHz コンパンダーモードを UWP に設定時：32 kHz コンパンダーモードを WL800 に設定時：32.768 kHz
電源電圧	3.0 V DC（単 3 形アルカリ乾電池 2 本） 5.0 V DC（USB 端子より供給）
電池持続時間	約 10 時間（ソニーアルカリ乾電池単 3 形（LR6）2 本使用、10 mW 出力、25 ℃）
許容動作温度	0 ℃〜 50 ℃（充電時は 0 ℃〜 35 ℃）
許容保存温度	− 20 ℃〜＋ 55 ℃
外形図	



寸法	63 × 92.6 × 20 mm（幅／高さ／奥行き） （アンテナ含まず）
質量	約 105 g（乾電池含まず）

付属品	ベルトクリップ（1） 電池ケース（1）（中国向けモデルのみ） ご使用になる前に（1） CD-ROM（1） 保証書（1）

仕様および外観は、改良のため予告なく変更する場合がありますがご了承ください。

- お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。
- 本製品を使用したことによるお客様、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切の責任を負いかねます。
- 諸事情による本製品に関連するサービスの停止、中断について、一切の責任を負いかねます。

お問い合わせは
「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/